

(別紙) 被表彰団体および個人

<環境大臣賞受賞者> (敬称略)

<p><b>団 体：丹後スペースクラブ(京都府大宮町)</b></p> <p>「天象観察・自然観察等を通じ自然に親しみながら環境についての関心を深める」をテーマに、丹後地域を中心に夏冬の全国星空継続観察を継続して行っている。発足当時は「大宮町緑の少年団」として星空観察の他、植樹活動・ブナ林の観察会などの自然環境保護活動を中心に行ってきたが、平成5年度から全国星空継続観察に参加、平成10年度には、会員の寄付と会の活動の趣旨に賛同した企業の支援により、天象観察台「開星館」を開館した。また、同時に「丹後スペースクラブ」と改称し、以後は星空観察・月観察・太陽観察等の観察会を中心に積極的に活動している。</p> <p>参加対象は限定しておらず、観察会等を開催する時は広く参加者を募集すると共に、機器取り扱いなどの研修会も開催している。</p>
<p><b>個 人：内田 重美(神奈川県横浜市)</b></p> <p>横浜市若葉台団地の天文同好会を主宰した後、「星空を守る会」に属し、光害対策活動を始め、現在では同会の中心的役割をしている。語学力を生かし、国際ダークスカイ協会(International Dark Sky Association)日本幹事として国際的にも活躍している。照明改善についてのシンポジウムの開催、執筆、行政への提言等の活躍も顕著である。また、「光害防止制度検討委員会」委員として、「光害防止制度に係るガイドブック(平成13年9月 環境省)」の策定に関わった。</p>

<「星空の街・あおぞらの街」全国協議会会長賞受賞者> (敬称略)

<p><b>団 体：天文ボランティア「宇宙船」(宮城県仙台市)</b></p> <p>「天体観望会を通じて、星に親しみ、星空の美しさを一般の方々に啓発し、望ましい照明についての理解を深め、望ましい環境を考えていくこと」をテーマに、41名の様々な職種の構成員が、それぞれの特技を遺憾なく発揮し、ユニークな「星空環境」の啓発活動を行っている。宇宙船の構成員は、学生、主婦、大学教官、ITシステム開発者、カメラ店主など多岐にわたる。仙台市天文台を活動拠点にして、毎月定例会を持ち、その中でより良い天体観望会を目指した学習会が行われている。</p> <p>通常の活動として、金曜日あるいは土曜日の夕方から深夜にかけて、仙台市役所前の市民広場で一般の方々を対象にして観望会を行うほか、月に1から3回程度の回数で、町内会や子供会の依頼による天体観望会を行っている。また平成12年度から始まった「仙台星祭り」では、仙台市近郊に限らず広く県内各地から天文愛好者が集まり、星を見る楽しさを広く一般の方々に紹介する啓発活動を展開している。</p>
<p><b>個 人：小原 英(岩手県大船渡市)</b></p> <p>全国星空継続観察で昭和62年から現在に至るまで15年間毎年、釜石市で講師を務めている。その際、双眼鏡のピントの合わせ方から、星座にまつわるロマンあふれる解説や大気環境に関連する講話までを、幅広く分かりやすく地域住民に説明している。また、平成13年度からは公民館長として、植物観察会やホテル観察会等の様々な事業を展開し、社会教育の面からも自然保護運動に積極的に取り組んでいる。</p>
<p><b>個人 特別賞：百武 裕司(故人)(鹿児島県隼人町)</b></p> <p>眼視による彗星捜索活動を行うかたわら、自らの彗星発見における体験や天文に関する知識を活かし、日本全国で観望会や講演会を行い、天文教育の啓発・普及や光害の影響、地域の環境保全の大切さを訴えていた。また、スターランドAIRA館長として、地元住民への天文教育や地域の環境保全に積極的に関わっていた。</p>